

# Koryu

栗東国際交流協会

〒520-3088

滋賀県栗東市安養寺1-13-33

TEL 077-551-0293 FAX 077-554-1123

URL <http://www.mediawars.ne.jp/~rittoing>

E-MAIL [rittoing@mediawars.ne.jp](mailto:rittoing@mediawars.ne.jp)

編集 総務広報委員会

Ritto International Friendship Association

## 古代の栗東を探索 ～古墳めぐり・勾玉作り～

文化事業委員会

第17回異文化交流サロン 平成15年7月13日(日)

(龍王古墳・日向山古墳・榊山古墳・下戸山古墳・小槻大社古墳群・地山古墳・和田古墳群)

7月13日(日)午前10時過ぎ、在住外国人を含む約30名が小雨のそは降る中、栗東市役所前を出発、古墳群を訪ねて古代の栗東を探索し、日本の古代文化に触れる「異文化交流」のツアーを行いました。



最初に訪れた龍王古墳  
—写真下部が石室



出土文化財センターでの記念撮影

ご案内役は、RIFAのメンバーで、市文化財担当の松村浩さん。ユーモア交じりのわかり易い説明で、古墳時代の人々の生活に思いを馳せながらバスに揺られます。現在の自治会長の立場の人々が葬られたという日向山古墳、下戸山古墳。市長に当たる地方の豪族が祀られていたという小槻大社、地山古墳などを見学。コースの最後に和田古墳公園に隣接する出土文化財センターを訪ね研修室でお弁当をいただきました。その後、勾玉づくりに取り組み、思い思いの形に出来上がった作品を見せ合いながら大いに盛り上がりました。



日向山古墳の横穴式石室  
ほんとうは真っ暗闇です



小槻大社 境内を中心に  
19基以上の古墳群が点在



勾玉づくりに挑戦して  
古代人になった気分!

外国籍の人々も「参加して良かった。」「勉強になりました。」などと話していました。まずは身近な日本の歴史を知ることが国際理解への第一歩、その意味でも有意義な一日でした。(A.O.)

+++++ 私たちはRIFAの活動を応援しています。 +++++

株式会社津ツーリスト 株式会社清水商店 株式会社新洲 株式会社スマイ印刷工業 創造産業株式会社 富士工業株式会社  
株式会社宝文堂 ホテルボストンプラザ草津 丸善産業株式会社 栗東総合産業株式会社 栗東市農業協同組合

5月27日、6月5日の2回にわたって、韓国語講座を開催。17名のRIFA会員が、熱心に受講しました。講師は韓国に留学経験のある永田純子さん。RIFAの会員でもあり、前回のVol. 14の読者コラムに寄稿してくださいました。

まず、ハングル表の母音・子音を習い、その組み合わせを習い、発音を習いました。日本語にない発音もあって、ちょっと難しいところもありますが、KとTの発音が文章内では、それぞれGとDに変わるという、初めての日本人にとっては、不思議な、また興味深い発見をしました。では、「多田さん」とか「加賀」とかはどう発音される？2日目には、ひとりひとりが自分の氏名をホワイトボードに書いて、全員で読み合いました。みんな素晴らしい！！

あるアンケート回答より：日本語にないニュアンスがあって  
おもしろい。  
ハングルは親しみやすい。



## ペンシルヴァニア発 RIFA [2]

私の住むジョンスタウンの紹介をちょっぴりしますね。

このペンシルヴァニアの小さな町はこれまで2度の大きな洪水に見舞われました。とくに1889年5月31日にダムの決壊が原因で起こった洪水では2209人の命が奪われました。ここは欽地のため、雨が続くとニュースでも必ず洪水の予想が流されます。2度目の1976年の洪水は私の夫も経験しており、鉄砲水がアパートを直撃して逃げ出したけれど集めていた切手のコレクションや家族の写真などは全て流されてしまった、といつも洪水の話になると残念そうです。

この夏は雨の日も晴れの日も順番にやってきている感じですが、夏休みも真っ盛り、色んな行事がめじろ押しです。そのなかでも面白いな、と思ったのが3on3（スリー・オン・スリー）と呼ばれるバスケット



3on3

ボールのトーナメント大会です。特にアフリカンアメリカンが集まって住んでいるプロスペクト地区のバスケットボールコートで週末の一日、3人対3人でバスケットボールをするのですが、そこにはゲームを楽しむと同時におしゃれをした男女が赤ちゃんや子どもたちを連れてやってきます。こういう場面が彼らの社交場、出合いの場でもあるようです。そこにはテントがあり、日本だと焼そばやとうもろこし、といったところですがここではバーベキューのスペアリブやホットドッグ、ハンバーガーを売っています。うちの子どもたちもとても喜びました。

夏も終わりに近付くとカウンティフェアと呼ばれる、農業祭りが色んな郡ごとに行われます。屋台が出ていてゲームをしたり、綿あめやアメリカンドッグなどを頬張りながら夜遅くまで歩きます。カントリークラフトを買ったり、ヤギや牛、豚も手が届く距離で見学したりすることが出来るので家族連れにはピッタリです。大きなカウンティフェアには毎晩大物歌手がやって来ます。そのコンサートも入場料（約千円前後）で見ることが出来ます。

私のアメリカの夏といえばこんなところでしょうか。そろそろ日もだんだん短くなって、夜も涼しいので夏も終わりに近付いているようです。じきにやってくる9月には子どもたちを学校に送り出す準備に大忙しのアメリカです。



長女のメロディちゃん(中央)とお友達  
(お嬢にフェースプリントをしてもらって)

(ミシガン州友好親善使節団) 8月5日(火)～10日(日)



エリンさん(左)、ドロシーさん(右)

ミシガン州と滋賀県の友好親善使節団のプログラムで26人の代表団が来県、2人のパーミンハム市の使節団員が栗東を訪れました。ドロシー・アブシーさんと、エリン・ボイドさんです。元職場の同僚で30年程の親交があるというお二人はいっしょに、橋川湖・主子ご夫妻宅に3泊、千代正直さんご一家のお宅に2泊のホームステイをされました。

ドロシー・アブシーさんが栗東へ来られたのは今回で5度目、というとてもうれしいお話です。昨年亡くなられた夫のエルドンさん

はミシガン州と滋賀県が姉妹都市協定提携時の関係者であり、パーミンハム市と栗東市が協定を提携するにあたって非常なご尽力をくださったという方で、是非もう一度栗東に来たいと望んでおられたのを、ご夫人のドロシーさんが、「夫も喜んでくれていると思います。」と長年の友人のエリンさんと訪問を決意されました。ドロシーさんは、過去25年間に、50人ものホームステイを引き受けてくださり、その方々との交信も絶やさず、今回、そんな方々との再会を喜び、また、新しい友好の輪を広げるなど、素晴らしい貢献をしてくださいました。

初めての来日で、直前のミシガンの新聞のインタビューでは、「特に楽しみなのは、観光地などの場所ではなく、人々との出会い」と語ったというエリンさんもとてめフレンドリーな方。旧和中敷本舗では、江戸時代に葉の製造に使われたという大小の歯車や葉研(やげん)などを熱心に見学。旧和歌山のお茶会では、お茶を召し上がるだけでなく、お茶室(ちゃせん)を持ってお茶をたてる経験も。信楽では、RIFA会員と作陶を楽しみ、知人へのおみやげにと米日前から楽しみにしていた『たぬき』を買われました。

最後の夜の交流会でも、お二人はまた新しい出会いを大切にされて、多くの方々とお話しされ、別れを惜しまれました。



表敬訪問も和やかな雰囲気



旧和中敷本舗で熱心に説明を聞いて



金剛の山から栗東市を一望して



信楽で



交流会で